

コロナ禍の令和2年度 入学式・卒業式

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により世界中で行動が制限されましたが、清水学園でも最大の行事、入学式と卒業式を細心の注意のもと、厳粛に執り行いました。



振袖、長襦袢、袴とすべて自分で仕立てた衣装で巣立ちの日を迎えた卒業生



2ヶ月遅れでしたが、無事行われた令和2年度の入学式



右から着装主任講師寺屋美代子先生、正教授川上恵津子さん、学士三島美穂さん、竹内芳子先生

きもの着装正教授の資格授与も行われました。



式典終了後に、マスクを一時的に外して全員で記念撮影

例年なら桜の季節に行われる入学式と進級式。令和2年は延期して6月1日、紫陽花の季節に行いました。感染防止のため、受付で体温を計測し、各階に消毒液や除菌スプレーを設置し、全員マスク着用、教職員もマスクにフェイスシールド着用と、これまでにならぬ状況下でのスタートでしたが、学園の主役である生徒が揃って活気を取り戻し、当たり前前に学習できることに感謝の思いを抱く一日となりました。入学者には、清水とき学園長がデザインされた、ときに流水模様の浴衣が贈られ、和裁の授業でさっそく仕立てられました。

令和2年度の卒業式は、出席者を限定して3月20日に挙行されました。規定の過程を終了した卒業生たちは、自ら仕立てたきものや袴を身に付けて式に臨みました。また当日は、専門課程および別科の各種資格の認定式、きもの着装学士および着装の最高学位であるきもの着装正教授の資格授与も行われました。



自作の浴衣や着物を着た出演者たちによる記念写真

1年生は入学式に授与された「とき浴衣」の反物を仕立て、帯結びを工夫して着装。2年生とブ口科は自分で染めた浴衣や単衣のきものなどを着用して出演しました。「自分で縫ったきものを自分で着て確かめる」という清水とき学園長の教えを体現するショー形式の学びの場でもあり、生徒たちは楽しみながらも、着装や帯結び、身のこなし、すべてを真剣に取り組んでショーを盛り立て、教職員たちに成長した姿を見せてくれました。

「自作自演」の浴衣ショー
 「七夕浴衣ショー」として例年本校で親しまれているショー。コロナ禍の今年は1ヶ月遅れの8月7日に無観客で開催しました。

「冬期きもの大学」で充実の一日
 一流の講師による講義が魅力の「きもの大学」。今年度は本校生徒および学園関係者を中心に限定した人数で開催されました。

令和2年11月29日、清水学園8階講堂で、本校の人気講座「冬期きもの大学」が行われました。午前は本校着装主任講師の寺屋美代子先生と河内美津子先生による帯結びの実演講義。午後は東京国立博物館の工芸室長で文学博士の小山弓弦葉先生を招聘し、総責任者として務められた「特別展『きもの』」に見る小袖ときもの歴史」と題した講義を行っていただきました。



女性用帯結び2点と男性の袴の着装について解説



本校が会場となった和裁検定の実技試験に、集中して取り組む受験生たち

和裁に関する仕事を志す者にとって必須の資格。清水とき先生は第1回から検定委員を務めています。例年は9月に行われますが、今年度は11月21、22日にかけて実施されました。

「きもの文化検定試験」
 「和裁検定」に挑戦！
 各種検定試験は、学びを確かなものにし、卒業後に役立つとして積極的に参加を求めています。今年も多く多くの生徒が挑戦して、優秀な成績を収めました。

令和2年11月1日、全国一斉に一般社団法人全日本きもの振興会主催の「きもの文化検定」が行われました。第1回から参加している本校は、学校受験という形式で15回目の検定5級から1級にチャレンジしました。

「和裁検定」は東京商工会議所が主催する検定で、和裁に関わる仕事を志す者にとって必須の資格。清水とき先生は第1回から検定委員を務めています。例年は9月に行われますが、今年度は11月21、22日にかけて実施されました。

針供養&桃の節句
 毎年恒例の針供養を、今年度はコロナ禍により約1ヶ月遅れて桃の節句と併せて行いました。

学校行事の開催がままならない中、日常使っている針に感謝する行事「針供養」は、本校にとって大事な取り組みです。雛人形を飾った「きもの芸術館」での講義の後、5階教室で針供養を行いました。最後に清水とき学園長から差し入れのお弁当と雛あられをいただき、季節の風趣を味わいました。



折れたり曲がったりした針に感謝をこめて、やわらかい豆腐に刺して供養



桃の節句(上巳の節句)と雛人形について学芸員横手里望講師が説明

連鎖校便り

きものを愛し、清水とき先生のきもの学や着装法を伝える連鎖校の先生方から、活動内容やきもの教育にかける思いを報告していただきます。

都・水谷和装塾 水谷房子

清水とき先生からは「何でも本物を見たり、一流の人から聞いたりして勉強するのよ」と、いつも真心のこもった教えをたまわりました。そんな清水先生の教えを生徒さんに伝え、きもの文化を守っていききたいと思い、連鎖校で教え始めました。

清水先生には「きもの女王全国大会」などの着つけのほか、中国へも同行するなど、たくさん勉強させていただきました。清水学園にはきもの博物館もあり、各時代のきものを知ることができるので、とても良いです。清水学園、清水とき先生に教えていただいた感謝、謝を忘れず、日々の授業に取り組みしていきたいと思えます。



「多くの学びに感謝している」と語る水谷房子先生

都・奈良・雅きもの学園 吉岡雅子

国のまほろば奈良の地に連鎖校がないので、やってみせんと、清水とき学園長より勧められ、連鎖校を始めさせていただきました。生徒さんは十代から八十代までいらっしゃいますが、「自分できものを着てお出かけしたい」と日々頑張っておられる姿に、「こちらが元気をもらっています」。

また大阪モード学園へも行かせていただいています。令和2年度以降コロナのため休講が続いている状態です。例年、生徒さん達が斬新な発想で着つけに取り組んだり、お祖母様お母様の愛のこもったきものに手を通す喜びを感じたりする姿に、きもののもつ魅力を再認識しています。「きものは楽しんで着て、おしゃれを楽しみたい」です。世界の中で最高のせいたく品であり幸せなもの



「きもの母さんの娘としてがんばりたい」と語る吉岡雅子先生

由な生活が戻り、きものを着て生徒さん達とお出かける日が来ることを願ってやみません。

都・村上裕子きもの教室 村上裕子

初めて清水とき先生とお会いした際に戦前戦後のたくさんのお話をうかがい、どんなに苦しく物のない時代でも様々な知恵と努力で生徒達を守りながら、苦しんでいる人々を励ましてこられた先生の生き方に感銘を受け、きものを通じて未来につながる仕事をしたいと思えました。

都・村上裕子きもの教室は、表参道に開校して、二〇一七、二〇一八年には表参道ヒルズにて「HAPPY



きもの普及に努める村上裕子先生。前列右から7番目

かおるきもの教室 河野薫

清水学園との出会いは息子が小四の時、今五十五歳になりますから長い付き合いです。その間、園長先生をはじめ学園の先生方そして多くの仲間と生徒さんとの出会いが私の財産です。

園長先生の優しい笑顔、あたたかさに惹かれて今日までご指導に感謝しております。愛知にいた頃は毎月名古屋でお目にかかり、本校にも通いました。島根に来てからはなかなか大学講座にも参加できず残念です。平成二七年、乳がんの手術を広島で受け、しばらく精神的にも辛くて大変でしたが、生徒さんの好意に甘え、乗り越えることができました。八十歳を目前に引退も考えるようになり、きものを着ることだけではなく、これまで以上に基礎知識に残りの時間を費やしたいと思えます。広島の病院にも通いながら、もう少し頑張ります。以前園長先生も山陰にお見えになり、交通の不便さに驚かれています。が、随分良くなりました。美肌県に選ばれた島根県。どうぞ皆さんも温泉と観光に来てくださ

い。



生徒さん達と。前列右から3番目が河野薫先生

好評 清水とき着装法 正統派 本格きもの着付

山梨県

学校法人 清水学園
専門学校 清水とき・きものアカデミア・チェーンスクール

草野きーぎんぐ学園

草野きもの着付専門学園

学園長 草野 可奈

かがやき **きもので輝く** 多くの卒業生がプロとして活躍しています。

受講ご案内 **☎ 055・251・0849**
FAX 055・251・0859 草野

草野きーぎんぐ学園 [検索](#)

中日文化センター便り

昔から芸どころとして知られ、おけいこごとの盛んな土地である尾張名古屋を中心に、中日文化センターの各校があります。五十五年の歴史とともに清水とき先生が指導されてきた中日文化センターで尽力される先生方からメッセージをいただきました。



栄中日文化センター事務局長 猪飼球子

中日文化センターは昭和四十一年四月二十七日に開講し、今年五十五周年を迎えました。当時の講座数は二百五十で、「一流の講師による、一流の講座」が私たちの矜持であり、センターとして最大のアピールポイントでした。裏千家の千宗室様、池坊の池坊専永様、西川流西川鯉三郎様、料理では江上トミ先生、辻敷先生、土井勝先生、と大きな名前が残っています。特に力を入れていた「和装の着付け」は、清水とき先生にお願いしました。

栄センターばかりではありません。清水先生にはその後、各地に開設したグループセンターもお願いし、和装の魅力と技術を受講生に伝えていただきました。文化センターの講座をきっかけに、東京の先生の本校に通われ、研鑽を積まれた方も多数いらっしゃいます。やがて文化センターの講師になっていただいた方もいらっしゃると思います。私たちに託して、たいへん喜ばしいことです。

先生方に教えていただいているのは「きもの文化」だけではなく、針供養や桃の節句、七夕などを積極的に講座に取り入れられ、日本の文化とともに、薄れかけている季節の行事を感じる機会を与えてくださっています。

文月(七月)には、ロビーで「藍を纏(まと)う」「きもの遊ばし」というテーマで、着付けした浴衣を展示していただきました。今年は梅雨明けが遅かったのですが、受講生の皆さまには涼しさを感じていただきたいと思います。

より良いセンターを目指して、私たちはなお努めていかなければ、と思っています。これからも清水先生と皆さまと歩んでいきたいと考えています。

名古屋栄中日文化センター 着付講師 舟橋千代子

尾張名古屋の中心、栄に中日新聞社運営の名古屋栄中日文化センターがあります。今年創設五十五周年を迎えます。開講以来の講師であります清水とき先生のお側で、座学である「きもの百科」「きもの大学」また、実技の「手結びきもの着付」講座を担当しております。

昔から尾張名古屋は芸どころとして知られており、おけいこ事の盛んな土地柄でもあります。きもの文化に関する歴史、染と織、文様、素材、着装技術などの知識をもとに、お道具を一切使わない、やさしい手結びの着付けとして、ご自分できものが着られるように、桑を繭を育て、糸を紡ぎ、布を織り、染め縫う、多くの人々の手を経て仕立上ったきものを慈しみ、ある時は人生の門出に、ある時は悲しみの装いとして、お召しになれる方の心に寄り添うように、真心込めてお着付けするよう指導しております。

きものは季節感を大切に致します。晴れ着で集う新年のプレゼント交換会、二月の節分豆まき、針供養、三月のひな祭、七月の七夕ゆかたまつりなど、皆さんと四季折々の行事を楽しんでおります。

数十年おけいこにお通いいただける会員さん、おけいこを始めたばかりのきもの初心者の方、きものを通して仲良く、ワイワイガヤガヤとにぎやかに、おけいこに励んでおります。



名古屋栄中日文化センター 和裁講師 北原弘子

昭和四十一年五月(一九六六)名古屋の中心地「栄」に中日文化センターが開校し、その折清水学園の和裁科が開講しました。当時洋裁をしていた私は母の勧めで入会しました。授業の始まりは10分間必ず全員で連針(師範科修了するまで)を、しました。本科1年の最後は、大裁女物裕長着(紬)を仕上げ修了。その後研究科(4年)において製作した作品は多数ありましたが、その間に和裁の国家検定や教員検定等を取得する人たちも多々、6年目の師範科はカリキュラムの最後として、袴(男女)、花嫁衣裳一式等制作しました。その6年の間に和服の制作のみでなく、年に度々清水先生の「民族衣裳」としての歴史や生地産地の産地等々の講義もあり、「きものショー」「作品展」なども盛大に行われました。現在、コロナ感染症のため、各和裁教室の出席者は少数ですが、今五十年余りを振り返り、清水先生から学んだ「きもの」に対する熱い心をもって、数多くの卒業生達は、楽しみながら「和裁」を仕事として頑張っている事でしょう。現在欠席の人達にも、落ち着いた折には又多数の出席を期待しています。



一宮中日文化センター 着付講師 小川悦子

毛織物の産地、七夕まつりで有名な尾張一宮にきもの着付け講座があります。私が昭和62年に受講生としてお世話になったときから数十年がたつて今ここで講師をしております。

みなさん元気で明るい方々です。毎週楽しく時には少し真面目に……。中には20年近いベテランの方から、つい先月入られた方まで助け合い、着付けの技術を高めています。年齢層も幅広く、七五三や結婚式など色々な行事がある度に、どのような着物がいいのか、帯や小物の取り合わせ方は、と皆さんを交えて賑やかに勉強する機会も多くあります。一層皆さんの目が輝く一時です。

清水先生をはじめ先輩の先生方から御指導を受け、今の自分があることをとても感謝しております。そして、学んできた着物の知識や朱鷺流の技術を次の世代に繋いでいけるよう、「初心を忘れず」日々努力していきたいと思っております。



ぎふ中日文化センター 着付講師 吉川良子

岐阜県出身、愛知県(セントレア空港近)在住。

平成に入り娘の成人式に晴れ着を着せたいと、地元の中日文化センター着付け教室に入校。数年後、名古屋栄中日文化センターきもの百科も受講、以来清水とき先生の教えに触れ、どんどん日本の伝統美、きもの学にはまっていきました。

岐阜へ来て十数年、ほぼ同時期に名古屋での園長付きとなり、以来、とき先生の間近で、社会全般の生業、礼儀作法、着物での所作等、数々の教養を賜りました。

金華山にそびえる岐阜城、美しく流れる長良川での鵜飼、夏の夜空を色彩する花火大会等、数々の名所ある岐阜の中心部、柳ヶ瀬の教室より、清水とき先生の着付けのあり方はもちろん、「着物学の心」を広くわかりやすく伝えていきたいと思っています。



中日文化センター

あたらしい私との出会い

中日新聞社



中日文化センターグループ「着付け」「和裁」講座 開講センター

愛知県 名古屋・栄 0120-53-8164
 鳴海 0120-538-763
 南大高 0120-534-373
 一宮 0120-138-253
 犬山 0568-62-6346
 高蔵寺 0120-031-229

愛知県 豊田 0120-98-2841
 知立 0566-82-2772
 岐阜県 ぎふ 0120-670-877
 三重県 津 059-225-8411
 滋賀県 びわこ 0749-52-2145

※詳しくは各センターへお問い合わせください

清水会の皆様より

清水会は、清水学園で学んだ卒業生が卒業後も情報提供しあう交流の場です。今回は会長の千木良晴子さんほか3名の方に近況報告やメッセージをいただきました。



清水会会長 千木良晴子

清水会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年からコロナ禍で人の集まりがはばかられ、会いたい人にもなかなか会えない寂しい状況が続いています。そんななか、このスクール・ジャーナルで母校や、何人かの方の近況に触れることの有り難さと、うれしさを実感しています。

学んだ技術を今に生かして人の役に立たれている皆様から元気をいただけることに感謝しつつ、清水とき先生ならびに学園の先生方、そして清水会の皆様のご健康と、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。また皆様とお会いできる日を楽しみにしております。



渡邊比呂美 (夜間部きものプロ科卒)

昼働き、夜学んだ清水学園での6年間は、本当に充実した楽しい時間でした。教えることを生業としている私にとって、教わる立場に立つことは新鮮であり、また学ぶ喜びを日々感じることは、教えることにもよい影響がありました。

現在も、都の時間講師として小学校で理科と家庭科を教えています。理科では、酸・アルカリの発展学習として染色を、家庭科では手縫いの基礎を導入しています。手本を見せると、子どもたちから大きな歓声が上がります。学園で身につけた知識と技術の確かさを感じる瞬間です。日本の伝統文化を学ぶことは、子どもたちの将来にもよい影響を与えると信じています。

私も教職を辞する頃となりました。学園での学びを生かし、染織を中心とした工芸ギャラリーを開くのが第二の人生の目標です。皆様に良いご報告ができるよう、実現に向けて努力したいと思っております。



株式会社三越伊勢丹呉服営業部きものサロン

小嶋千香子 (夜間部きもの技術科卒) (旧姓中村)

きものが好きで、きものことをたくさん知りたいと思い、働きながら清水学園夜間部技術科に入学しました。在学中は、学校長の清水とき先生をはじめ、各教科の先生方が丁寧にご指導くださることをよく覚えております。少人数制で先生との距離も近く、分からないことをひとつ聞くと、その何倍も詳しく教えてくださるので、きものことを内容を濃く、楽しく学べる喜びの日々でした。

卒業後にきものに関わる仕事に転職し、15年以上経た今も続けていますが、学生時代に学んだ知識や技術が、随所で仕事に生かされています。それでも、まだ知らないことがたくさんあり、日々勉強して、きもの奥深さを実感しています。きもの素晴らしさを、きもの好きの方だけでなく、きものに縁遠い方々にも伝え、次世代につなげていきたいと思っています。



きもの処 つがるや中村 川上育世 (ファッション科卒) (旧姓中村)

きものリメイクに興味を持ち専門学校で勉強したいと思っていたときに、洋裁ときもの知識を一緒に学ぶことのできる清水学園(ファッション科)を知りました。先生方との出会いは私にとって新たなスタートでした。今でも、また学びに行きたいなと時々学園での生活を思い出します。

卒業後は実家の呉服屋を手伝いながらリメイクの仕事もしています。着なくなったきものをバッグや洋服にしてお客様に喜んでいただく、とてもうれしい気持ちになります。新しいカタチに変えても大切に引き継いでいただくことが私の喜びです。今年の5月に待望の女の子を出産し、6月に家族で初宮参りに行きました。初めて親子三代できものを着て、「私も母のように自分で子どもに着せてあげられるようになった」「服を作ったあけたい」と感じました。今は休職して育児に専念の日々ですが、また仕事に復帰した際は学園で学んだことを生かし、きもの良さをしっかり後世に伝えていきたいと思っています。

クローズアップ

今こそ向き合いたい〈清水学園の建学精神〉

コロナ禍の制限下にあつて、より良い授業を模索した令和2年度。今こそ百人以上続く清水学園の建学精神に改めて向き合い、教え、学ぶ情熱で困難を乗り越えていきましょう。

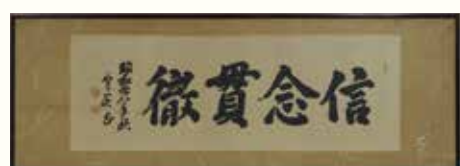
清水学園には「衣は人なり」という理念のもと、四項の建学精神があります。「信念貫徹」「自発創作」「共同奉仕」「不屈努力」です。この建学精神には、創設者の清水登美先生、そして学園を発展させた清水とき先生の教育に対する熱い思いが込められています。今回は、このうち「信念貫徹」と「自発創作」に着目します。

写真は、清水登美先生が昭和38年秋に揮毫されたもので、その力強い筆致には明治の教育者らしく、厳格な中にも慈愛の深さがしのべれます。「自発創作」は学園一階エントランスに、「信念貫徹」は五階に掲示しています。登校した生徒達は、いつもこの額の前を通り、この額に見守られて授業を受けます。

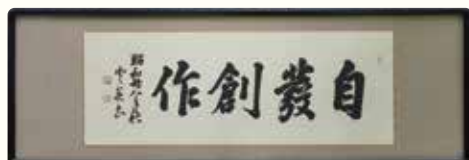
「信念貫徹」は、みずから決めた信念を貫き通す強さがあれば「かならず出来る」という教育方針です。戦災で焼け野原からの出発を余儀なくされた清水とき先生が、戦後のきもの界をリードし、渋谷の一等地で本校を発展させた生き方を表すものでもあり、後から続く私たちの指針となっています。人生に困難は付きもの。コロナ禍だってそのひとつです。「かならず出来る」という強い意志が困難を切り拓く原動力となると論ず本校の建学精神は、今もなお次代を照らすものです。

「自発創作」は、学びを経て新たな創造力を養うことを目指す言葉です。温故知新といわれるように、歴史を知り、伝統を学ぶことで初めて実のある創作が可能になります。「こき結び」「こき小袖」と名付けられた清水とき先生を代表する帯結びやきものデザインも、江戸時代の風俗に学び、現代の美意識にかなうよう創作されたものでした。本校では常に伝統に学びなが

らも固定観念にとらわれない自由な創作を引き出すことを目指して教育活動をしています。



清水とき先生と長い付き合いがある、きもの専門雑誌『美しいキモノ』では現在、「大使夫人と民族衣装」が連載されています。その前後に清水学園を紹介するおなじみのページがあります。現在書店に並んでいる秋号では、「信念貫徹」が紹介され、次の冬号では「自発創作」に焦点を当てる予定にしています。あわせてご注目ください。



編集後記

世界中の各種イベントが中止や延期、規模縮小されるなか、学園行事も例外ではなく、これまで当たり前に行っていた行事が、とても貴重で素晴らしいと改めて気づかされた一年でした。スクール・ジャーナルの発行も遅くなり、心よりお詫び申し上げます。今号は、学園行事の報告とともに各校の先生方や、清水会の皆さまからのメッセージを掲載し、スクール・ジャーナルで人的交流を図れたらと願いました。引き続き卒業生や連鎖校、中日文化センターの皆さまからの情報をお待ちしています。引越先など住所が変わった際は、

学園事務局 ☎03(3400)02006、もしくは shimizugakuen@shimizu.ac.jp までお知らせください。また、同級生など日頃交流のある方々にもぜひお声がけください。